

文化・芸術



「美しき博覧会」

1926年、水彩、紙
37・5センチ×55・0センチ（寄託）

古賀春江（1895～1933年）

古賀春江（幼名・亀 雄）の名を聞いて、水

着姿の女性が片手をあげている作品「海」（1929年、国立近代美術館蔵）を思い浮かべ

る人も多いのではないだろうか。古賀はシュールレアリスムだけではなく、表現主義からキュービズム等々、モタニスムのただ中にあって多彩な表現を試みた画家です。

この作品は童画風の画面となっており、夢幻的な詩情世界が水彩の透明感も相まってや

同じ題名の詩の最後の一節を引用します。「美しき博覧会は魔術師の光る花束です」

（池田）

〈名画の扉〉

大川美術館企画展から

（池田）